

平成 29 年度

読谷村教育委員会事務点検・評価報告書

平成 30 年9月

読谷村教育委員会

1 趣旨

読谷村教育委員会においては、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第1項の規定に基づき、平成29年度読谷村教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、事務事業の点検及び評価を行い、読谷村教育委員会事務点検・評価報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

点検及び評価の対象は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第2条第4項に基づいて策定された読谷村第4次総合計画基本構想施策体系及び読谷村教育委員会主要施策体系に基づき、教育委員会の重点課題事項として抽出した主要な事務事業(29事業)としました。

3 点検・評価の実施方法

- (1) 点検及び評価にあたっては、事業の進捗状況等を明らかにし、自己評価(4段階)を行い、課題等を分析するとともに、今後の対応策を示しました。
- (2) 自己評価は、その成果を4段階で評価しました。評価の段階は次のとおりです。

段階	評価内容
A	目標を上回る成果があった
B	目標を達成する成果があった
C	目標達成に至らなかった
D	実施しなかった

- (3) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方々(学識経験者)の様々なご意見、ご助言をいただきました。ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

学識経験者	経歴等
佐久川 政一	前社会教育委員会議議長、元小学校校長
富底 正得	社会教育委員会議議長、元中学校校長

4 点検・評価結果の構成

(1) 施策名

平成 29 年度重点施策2施策の 29 事業ごとに点検評価をしています。

(2) 事業の目標

各事業の目標を掲げています。

(3) 平成 29 年度の取り組みの概要

各事業の目標達成に向けて、平成 28 年度に実施した主な取り組みを記載しています。

(4) 進捗状況

対象事業のこれまでの取り組みの成果を記載しています。

(5) 自己評価

平成 29 年度の取り組みについて分析し、自己評価した内容を記載しています。

(6) 今後の課題

平成 29 年度までの取り組みを踏まえ、今後の取り組みを進める上での課題を記載しています。

(7) 対応策

今後の課題を解決するための対応策を記載しています。

(8) 学識経験者のご意見

学識経験者の方々からいただいたご意見等について記載しています。

平成29年度 事務点検・評価対象事業一覧

	担当部署		事業名	評価	頁
1	教育総務課	施設係	小学校校舎等維持補修事業	B	4
2			幼稚園園舎等維持補修事業	B	5
3		教育総務係	小学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業	B	6
4			中学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業	B	7
5	学校教育課	学校教育係	中学生海外ホームステイ派遣事業	B	8
6			特別支援教育推進事業	B	9
7			青少年センター事務運営事業	B	10
8			預かり保育事業	B	11
9			小学校学習支援員配置事業	B	12
10			中学校学習支援員配置事業	B	13
11			小学校日本語教育支援員配置事業	B	14
12			小学校情報教育支援員配置事業	B	15
13			中学校情報教育支援員配置事業	B	16
14			幼稚園教育支援員配置事業	B	17
15	給食調理場	給食係	古堅給食調理場運営事業	B	18
16			読谷第二給食調理場新增改築事業	B	19
17	生涯学習課	文化センター係	文化センター施設管理運営事業	B	20
18			鳳ホール自主事業	B	21
19		生涯学習係	家庭教育支援事業	B	22
20		図書館係	図書館運営事業	B	23
21		スポーツ振興係	後援団体育成事業	B	24
22	文化振興課	文化振興係	歴史民俗教育普及事業	B	25
23			美術館教育普及事業	B	26
24			埋蔵文化財調査管理事業	A	27
25			返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業	A	28
26			村内遺跡発掘調査事業	A	29
27			沖縄語保存継承事業	B	30
28			歴史民俗資料館建設事業	B	31
29		村史編集室	移民出稼ぎ調査編集事業	B	32

1	事業名	小学校校舎等維持補修事業		
担当部署	教育総務課 施設係	事業費	59,049千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	児童の学習の場であるとともに、クラブ活動や地域の方々の健康増進の場としても利用されている学校施設の適切な維持管理を行うことで、安心・安全な校内環境の構築を行う。			
平成29年度の取り組みの概要	渡慶次小学校の防音機器復旧工事(空調改修工事)を行うための設計業務を発注した。 件名:防音機器復旧実施設計委託業務(渡小) 契約額:4,968,000円 契約日:平成29年7月24日 履行期間:平成29年7月25日～平成30年1月16日 内容:普通教室、特別教室の空調設備改修設計業務			
進捗状況	本年度(平成29年度)は、設計業務を発注し完了した。 次年度(平成30年度)において、改修工事を実施する予定である。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	設計業務を実施したことで、来年度予定している熱中症のリスクの軽減、安心・安全な教育環境の構築を図るための改修工事を行うための準備が整った。			

今後の課題	空調設備の耐用年数が15年であることから適正な維持管理に努め、さらには、15年後の防音機器復旧事業を計画的に実行する必要がある。			
対応策	空調設備改修工事を行うにあたり、防衛省予算を活用するために、計画、設計、工事と各段階でしっかり沖縄防衛局に対し事業要望していく。			

学識経験者のご意見	かつて沖縄では、子ども達はクーラーのない教室で、夏の暑い中、フウフウ言いながら勉学に勤しんだ。小学校において、学力向上や子ども達の心身の調和の取れた発達には、安心・安全で、かつ快適、効率的な学習環境が必要である。それを提供することが、教育委員会の重要な責務である。空調設備だけでなく、校舎の経年による老朽化の改善も視野に入れながら、今、現在の子供達に最善の環境を与えられるように、今後とも予算確保、計画的な事業を期待したい。			
-----------	--	--	--	--

2	事業名	幼稚園園舎等維持補修事業		
担当部署	教育総務課 施設係	事業費	25,362千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	園児の学習の場である施設の適切な維持管理を行うことで、安心・安全な校内環境の構築を行う。
-------	--

平成29年度の取り組みの概要	<p>渡慶次幼稚園の防音機器復旧工事(空調改修工事)を行うための設計業務(①)と、古堅南幼稚園の改修工事(②)の実施。</p> <p>①件名:防音機器復旧実施設計委託業務(渡幼) 契約額:幼:864,000円 契約日:平成29年7月24日 履行期間:平成29年7月25日～平成30年1月16日 内容:保育室、遊戯室などの空調設備改修設計業務</p> <p>②件名:古堅南幼稚園防音機器復旧工事 契約額:16,200,000円 契約日:平成29年8月31日 履行期間:平成29年9月1日～平成30年2月28日 内容:保育室、遊戯室など空調機の取替え工事</p>
----------------	---

進捗状況	<p>①渡慶次幼稚園において、防音機器復旧工事(空調改修工事)の設計業務を発注し完了。改修工事は、平成31年度に実施予定。</p> <p>②古堅南幼稚園において、平成27年度に実施した設計業務に基づき、改修工事を実施した。</p>
------	---

自己評価	B	目標を達成する成果があった。
		<p>①渡慶次幼稚園においては、設計業務を実施したことで、来年度予定している熱中症のリスクの軽減、安心・安全な教育環境の構築を図るための改修工事を行うための準備が整った。</p> <p>②古堅南幼稚園においては、空調機器の改修工事を実施することで、熱中症のリスクの軽減、安心・安全な教育環境の構築が図れた。</p>

今後の課題	空調設備の耐用年数が15年であることから適正な維持管理に努め、さらには、15年後の防音機器復旧事業を計画的に実行する必要がある
-------	---

対応策	空調設備改修工事を行うにあたり、防衛省予算を活用するために、計画、設計、工事と各段階でしっかり沖縄防衛局に対し事業要望していく。
-----	--

学識経験者のご意見	<p>幼稚園においても、その発達段階、学校教育の基礎としての位置付けからも、小中学校と同じく、より快適で十分な環境を準備してあげることが行政の責務である。今年度は、渡慶次幼稚園と古堅南幼稚園の空調改修に取り組み、事業の目標を達成したとの事。</p> <p>今後の課題にも挙げられているように、耐用年数も考慮しながら、年次毎に、長期的に各園にバランス良く対応することを要望する。</p>
-----------	--

3	事業名	小学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業		
担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費	28,936千円	
施策名	生き生きがんにゅう・ゆいまーる	子どもたちの笑顔あふれるむらづくり		

事業の目標
 経済的理由により就学困難と認められる小学生の保護者に対して必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施を図る。

平成29年度の取り組みの概要
 小学6年生の要保護・準要保護認定者に、「修学旅行費」を支給。
 準要保護認定者に、「新入学用品費」「学用品費」「通学用品費」「学校給食費」「校外活動費」「医療費」を支給。
 小学6年生の準要保護認定者に対して、「新入学準備金」として「新入学用品費」の前倒し(2月)支給を実施した。
 平成29年度より医療券の利用期限を「12月31日まで」から「3月31日まで」に延長した。

進捗状況
 要保護 認定者(小学6年生) 5名。
 準要保護 認定者 399名。
 全児童数における就学援助認定者の割合13.97%。

自己評価
 B 目標を達成する成果があった
 援助が必要な時期に支給できるよう、次年度の新中学1年生に対して「新入学準備金」を支給する事で適切な時期に援助を行う事ができた。
 全児童数における就学援助認定者の割合が前年度の12.32%から13.97%に上がっており、制度の周知がより進んでいると考えられる。

今後の課題
 対象世帯に対し必要な時期に必要な援助を行えるように、認定作業のスピードアップと援助費の支給時期を早める必要がある。
 次年度の新小学1年生(現年度幼稚園生 等)に対して「新入学準備金」の支給を実施する必要がある。

対応策
 申請手続きや対象期間を見直すことで、認定作業及び援助費の支給を早められるような改善を行う。
 次年度に小学校入学を予定している対象者に対して、就学時健診の通知と一緒に就学援助の通知を行い、次年度の新小学1年生に対する「新入学準備金」の支給に関する手続きを実施する。

学識経験者のご意見
 「子どもの貧困」の問題がマスメディアに流れるが、それは言うまでもなく「親の貧困」の問題に他ならない。経済的に余裕がなく、援助が必要な親(保護者)に必要で適切な就学援助費を支給していくことは、教育の機会を均等にし、どの子も将来の自己実現に向けて可能性を広げていくという意味で重要な事業となる。
 就学援助制度の周知や、認定作業、援助費支給時期の問題など、課題としてあがっているので、それを改善していく事を要望する。

4	事業名	中学校要保護及び準要保護児童生徒就学援助費補助事業		
担当部署	教育総務課 教育総務係	事業費	20,253千円	
施策名	生き活きがんじゅう・ゆいまーる	子どもたちの笑顔あふれるむらづくり		

事業の目標	経済的理由により就学困難と認められる中学生の保護者に対して必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施を図る。
-------	---

平成29年度の取り組みの概要	<p>中学2年生の要保護・準要保護認定者に、「修学旅行費」を支給。 準要保護認定者に、「新入学用品費」「学用品費」「通学用品費」「学校給食費」「校外活動費」「医療費」を支給。 平成29年度より医療券の利用期限を「12月31日まで」から「3月31日まで」に延長した。</p>
----------------	--

進捗状況	<p>要保護 認定者(中学2年生) 8名。 準要保護 認定者 200名。 全生徒数における就学援助認定者の割合14.47%。</p>
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった
	<p>医療券の利用期限を年度末まで延長したことによって、う歯をはじめとする対象疾患の治療に対して、年度を通じて受診することができるようになった。 全生徒数における就学援助認定者の割合が前年度の12.42%から14.47%に上がっており、制度の周知が進んでいると考えられる。</p>	

今後の課題	対象世帯に対し必要な時期に必要な援助を行えるように、認定作業のスピードアップと援助費の支給時期を早める必要がある。
-------	---

対応策	申請手続きや対象期間を見直すことで、認定作業及び援助費の支給を早められるような改善を行う。
-----	---

学識経験者のご意見	<p>どの子どもその生まれた家庭環境によって就学の機会等に差が付くことは、あってはならないことである。いわゆる「負のスパイラル」を断ち切り、「正のスパイラル」にするためにも、経済的に援助が必要な親に、適切な援助を支給することは行政のみならず、社会の義務でもあると思う。就学援助費の補助事業が、継続・拡充していることは、高く評価される。今後は小学校と同様、課題とされる認定作業のスピードアップ、支給時期を早めるなどの取り組みを要望する。</p>
-----------	---

5	事業名	中学生海外ホームステイ派遣事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	3,300千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	海外での生活や体験を通して国際的な視野を持つ人材を育成するため、中学生を英語圏に派遣する。			
平成29年度の取り組みの概要	<p>学校長の推薦に基づいて選定した村立中学校2校に在籍する生徒11名を、現地の治安及び保護者の金銭的負担を考慮した上で、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル近郊に7/25～8/15の21日間にわたって派遣した。</p> <p>現地の家庭にホームステイすることで、英語の習得だけでなく、英語圏の文化を学んだ。</p> <p>また、保護者に対して30万円の補助金を交付した。</p>			
進捗状況	当事業は平成12年度から当年度平成29年度までに178名の生徒を派遣してきた。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	<p>帰国後、事業アンケートを実施し、派遣生徒及び保護者全員から回答を得た。生徒からは、将来、英語を学べる高校に進学したい、英語を使う職業に就きたいなどの意見があった。</p> <p>保護者からは、英検を取得したなど、生徒の国際的な視野がより広まったとの意見があったことから、事業目標を達成したと考える。</p>			

今後の課題	<p>上記のアンケートには、保護者の金銭的負担が大きいとの意見が多かったこと。</p> <p>定員12名の枠を11名しか満たせなかったこと。</p> <p>応募対象者を村立中学校に限定していること。</p>			
対応策	<p>金銭的負担については、派遣先及び期間について検討する。</p> <p>定員及び対象については、応募対象の枠を拡充することを検討する。</p>			

学識経験者のご意見	<p>国際化・情報化が急速に進行し、AIが人間の頭脳を超えるか？とまで言われるようになってきている現今、子ども達を、国際的な視野を持ち、英語でコミュニケーションがとれる人材に育てるため、本事業が平成12年から継続的に実施されていることを高く評価したい。参加した生徒、その保護者からのアンケートによっても、確実に目標を達成し、成果を出している。</p> <p>ただ、本事業は、保護者が経済的負担に余裕のある家庭の子しか参加出来ないことを考えると、公費(補助金)の拡充が重要であると考えます。</p>			
-----------	--	--	--	--

6	事業名	特別支援教育推進事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	45,867千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	幼稚園・小中学校に在籍し、心身に障害を持つ幼児児童生徒に対し個々に応じた適切な支援を行うため、支援体制の拡充と質の向上を図る。
-------	---

平成29年度の取り組みの概要	目標をもとに、特別な支援を要する幼児児童生徒の就学先を審議する教育支援委員会を開催する。 幼小中12施設に特別支援員を配置する。
----------------	---

進捗状況	幼小中及び教育関連施設より108件の依頼を受け、幼児児童生徒の適正な就学先を検討する教育支援委員会を15回実施した。 幼小中12施設に19名の特別支援員、教育委員会に2名の指導員を配置した。 特別支援員及び保護者を対象としたスキルアップ研修会を10回実施した。
------	--

自己評価	B	目標を達成する成果があった
	当初予定を上回る依頼件数により、教育支援委員会の開催回数が増えた。予定どおり、幼稚園・小中学校に特別支援教育支援員の配置を行い、困り感のある児童等のきめ細かい支援にあたった。	

今後の課題	特別な支援を要する幼児児童生徒の人数が増加傾向にあり、学校現場から支援員増員の要望がある。 また、配慮を要する児童生徒が増加傾向にあることから、教員を対象とした特別支援教育についての研修を行う必要がある。
-------	---

対応策	支援員の配置について、特別支援学級も含めた活用方法について検討する。教職員全体研修会で発達障害についての研修会を開催する。
-----	---

学識経験者のご意見	特別な支援を要する幼児児童生徒への個に応じた教育支援のため、今年度は、12の幼小中学校に、19名の支援員を配置し、教育委員会の2名を含め21名体制での支援、研修など、充実した取り組みが行われた事を高く評価したい。 今後は、一人ひとりの状態に応じたきめ細かな支援の拡充が求められる。増加傾向にあるとされる配慮を要する子ども達への対応のための支援員の増員や研修会の充実のための予算の拡充をお願いしたい。
-----------	--

7	事業名	青少年センター事務運営事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	6,745千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	⋮	共に学び、共に育つ場づくり	

事業の目標	児童生徒の抱える様々な悩み相談に応えるため、青少年センター相談員及び各学校に心の教室相談員を配置し、健全育成を図る。			
平成29年度の取り組みの概要	青少年センターに所長及び教育相談員を配置する。 臨床心理士を週に1回配置する。 小学校に、心の教室相談員を配置する。 中学校に、心の教室相談員を配置する。			
進捗状況	臨床心理士資格を持つ相談員やスクールソーシャルワーカーを配置している。 青少年センター通所相談に、小学生2名、中学生5名が利用した。 青少年センター教育相談501件、各学校教育相談3473件に対応した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	相談人数は減少傾向であるが、相談件数は増加傾向にあり、専門的な相談員の配置によりきめ細かい相談体制が整えられつつあり、青少年の健全な育成が図られている。			

今後の課題	青少年センター通所相談や各学校の相談室には、不登校や登校しぶりの児童生徒が利用しているが、学習に対する悩み解消への対応が必要である。また、青少年センターに、心因性が原因とみられる不登校児童生徒と非行型児童生徒の利用があり、相談内容に対応した場所の確保と対応出来る職員の増加が望まれる。			
対応策	学校での学習相談への対応として、場所の確保と学習内容の共有化を図ることで悩みへの解消につなげる。青少年センターでの相談については、場所を確保することで相談内容に対応する。			

学識経験者のご意見	児童生徒は、家庭・学校・社会生活上、様々な悩みを抱えて苦しみ、不適応を引き起こす。そのような子ども達への対応として、青少年センターがしっかり体制を整え、機能していることに、敬意を表したい。相談人数は減少しているが、相談件数は増加傾向にある、とのことであるが、子ども達の悩みが0になる事はないと思う。多様な相談内容に対応するためにも、現在の狭隘な所でなく、相談や学習など十分に活用できる場所を確保し、職員を増やすなどの更なる対応が不可欠である。教育相談は教育の主要な一部であるとの認識で、予算の拡充を望む。			
-----------	--	--	--	--

8	事業名	預かり保育事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	37,689千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	子育て支援、保護者の就労支援。			
平成29年度の取り組みの概要	<p>幼稚園の教育課程修了後、保護者が希望する幼児に対し、村内5幼稚園にて午後6時まで一時預かり保育を実施した。(延長保育は午後7時まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり利用人数(園児数に占める割合) 渡慶次幼64名(78.0%)、読谷幼82名(80.4%)、喜名幼46名(79.3%)、古堅幼45名(60.8%)、古堅南幼67名(84.8%) 計304名(77.0%) ・預かり配置職員 渡慶次幼5名、読谷幼5名、喜名幼3名、古堅幼3名、古堅南幼5名 			
進捗状況	子ども子育て支援制度の開始に伴い、平成27年度に定員撤廃したことで、利用率が増加している。今後も継続して事業を実施する。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	預かり利用人数の園児数に占める割合は、平成28年度76.0%、平成29年度77.0%と連続して利用率が高いことから、子育て支援や保護者の就労支援に繋がった。			

今後の課題	<p>2019年10月より保育が必要な子は保育料が無償となることから、預かり要件、保育時間、保育料等の見直しが必要となる。</p> <p>また、幼児の日々の様子やどのような取り組みを行っているかなど、午前と午後の職員間での連絡体制を整える必要があるため、午前の教育課程とのつなぎの時間を確保することが課題となっている。</p>			
対応策	<p>入園申し込み時に勤務証明などで保護者の就労要件を確認し、預かり要件等の見直しを検討する。</p> <p>預かり担当職員の勤務体制(シフト制)の多様化を検討する。</p>			

学識経験者のご意見	<p>平成29年度の預かり保育利用人数の園児数に占める割合は、77パーセントで、その利用率の高さが評価される。預かり時間の延長や定員の撤廃など、保護者のニーズに応える形の改善があったからだと思う。子育て支援、保護者の就労支援の目標が達成されつつあるものだと思う。</p> <p>今後は、事業を継続しながら、預かり要件、保育時間などの見直し、職員の確保などの課題にしっかり取り組んで頂きたい。</p> <p>子育ては、保護者が第一義的な責任者だが、行政の支援や地域の理解が大切である。</p>			
-----------	---	--	--	--

9	事業名	小学校学習支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	11,297千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	⋮	共に学び、共に育つ場づくり	

事業の目標	小学校の基礎・基本の定着、学力の向上のため、主に3年生を対象に学習支援員を配置し、個々の児童に応じたきめ細かな学習支援を行う。			
平成29年度の取り組みの概要	村内小学校5校に各1名ずつ学習支援員の配置を行い、学習内容が増大する主に3学年、特に系統性の強い算数の教科について支援を行った。			
進捗状況	5小学校各校に1名、計5名を配置した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	学習支援員を配置することにより、個々の支援を行うことにより基礎学力の向上に努めることができた。			

今後の課題	沖縄県学力到達度調査における正答率が本村小学3年生で県平均を過去3年間とも上回っており、今後もこの基礎学力の定着を図るために継続して学習支援員の配置が必要である。			
対応策	引き続き学習支援員を配置していくなかで、教員免許保持者の情報収集など、人材確保に努める。			

学識経験者のご意見	<p>発達心理学的にみると、小学校の10歳頃になると抽象的な思考力が高まるようになる。算数では、その思考の質的变化に合わせて記号を使った数式が多くなり、学習の抽象性が高まる。3, 4年生でつまずきが多くなるのはそのため。そこで、3年生に学習支援員を配置し、個人差への対応をしておく、この事業の重要な事がわかる。学力向上が成果をあげていることをみると、本事業で個に応じた指導の充実が図られている事にも要因があると思われる。</p> <p>今後は、さらに取り組みを継続し、各校1人ずつの配置を2人に拡充するなどの発展を期待する。</p>			
-----------	--	--	--	--

10	事業名	中学校学習支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	4,801千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり	

事業の目標	中学校の基礎・基本の定着、学力向上のため、主に数学を対象として学習支援員を配置し、生徒個々に応じたきめ細かな学習支援を行う。			
平成29年度の取り組みの概要	学習内容の系統性の強い数学を対象として、中学校2校に各1名ずつ学習支援員の配置を行い、支援を行った。			
進捗状況	2中学校各校に1名、計2名を配置した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	学習支援員を配置することにより、個々の支援を行うことにより基礎学力の向上に努めることができた。			

今後の課題	沖縄県学力到達度調査における正答率が、過去3年間県平均を下回っていたがその差は徐々に改善し、平成29年度は県平均を上回ることができたことから、今後もこの基礎学力の定着を図るために継続して学習支援員の配置が必要である。			
対応策	引き続き学習支援員を配置していくなかで、教員免許保持者の情報収集など、人材確保に努める。			

学識経験者のご意見	<p>学習内容の理解・習得には、個人により、早い遅いの差がある。特に数学に於いてはその傾向が顕著にあらわれる。そこで、系統性の強い数学を対象に学習支援を行うことは、基礎的な学力の定着に有効である。問題が解け、分かるようになると、学力が上がり、勉強が楽しくなり、学校生活そのものの楽しさへと繋がっていく。</p> <p>だが、全国学力調査によると、沖縄県の中学生は、まだまだ全国レベルには達していない。この事を課題として、今後、更に本事業を継続し、拡充していく事をお願いしたい。</p>			
-----------	--	--	--	--

11	事業名	小学校日本語教育支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	4,325千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	支援員を配置し日本語を習得していない児童に対し通訳や、他児童との交流の仲介等を行うことで、小学校生活に順応できるよう支援をする。			
平成29年度の取り組みの概要	二重国籍や外国籍を保有する児童が比較的多く在籍する、村内5小学校のうち、渡慶次小学校、喜名小学校、古堅南小学校の3校に各校1名日本語教育支援員を配置した。			
進捗状況	3小学校に3名を配置した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	年間を通し、日本語教育支援員を配置することで、要支援児童へ柔軟な支援体制の構築を行うことができ、それにより日本語習得の向上が図られ、学校生活への順応をサポートすることができた。			

今後の課題	日本語支援によって学校生活等における困難の改善を図ることができたが、児童の生活支援や学習支援、その保護者対応など、限られた勤務時間のなかでの支援について、日々、流動的であることから充分に対応できていない現状がある。			
対応策	小学校との協議のうえ、より柔軟な支援体制の実現を目指し、今後も継続的に支援員を配置し、対象児童の学校生活や学習上の困難の改善を図る。			

学識経験者のご意見	国際化が急速に進む流れの中で、子ども達が異文化に触れる機会が多くなった。読谷村の多様性を受け入れる魅力とも相まって、村に移住する外国籍の方々が増えている。そこで、日本語の話せない外国籍の子ども達を学校に受け入れ、本村の子ども達と一緒に教育している。これは、相互に啓発し合って真の国際理解教育に繋がるものと期待される。現在、3小学校に3名の支援員が配置され成果をあげているが、限られた勤務時間での対応や、生活支援、保護者対応など、課題も多い。これからも要支援児童の増加が考えられるので、今後も本事業を継続しながら、支援体制の拡充など更なる充実に期待したい。			
-----------	---	--	--	--

12	事業名	小学校情報教育支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	4,569千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	小学校に情報教育支援員を配置することで、国際性豊かな人材育成と情報教育を活用した学力向上への環境を整える。			
平成29年度の取り組みの概要	渡慶次小、読谷小の2校担当を1名、喜名小、古小、古堅南小の3校担当を1名配置し、各小学校においてICT機器を活用した授業の補佐、また、情報機器を活用する教員のサポート等の支援を行った。			
進捗状況	5小学校に2名を配置した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	年間を通し、小学校に情報教育支援員を配置することで、情報機器を活用する教員のサポート体制の強化構築を行うことができた。			

今後の課題	情報教育支援員の活用による支援体制の構築に努めてきた結果、教員のICT教育機器活用スキルが向上し、校内の教員同士の研修でICT教育機器が活用できるまでになった。したがって、情報教育支援員の継続配置について検討が必要となった。			
対応策	情報教育支援員の継続配置の是非について検討した結果、継続配置は必要なしと判断し、事業を完了とする。			

学識経験者のご意見	<p>今年度は、小学校に2名の支援員を配置し、ICT機器を活用した授業の補佐、教師のサポートが行われた。専門の支援員の学校への派遣により、教師の指導技術を向上させ、それに伴う、子ども達の学ぶ意欲の向上、確かな学力の定着に寄与してきた。</p> <p>今後は、SNSの普及、AIの進展などICT機器の更なる高度化が予想される。子ども達は日々成長し、向上している。従って、教育は「もうこれで良い」と言うことはなし。教師は日々、教育研修を怠らず、努力している。これからも、情報機器などの研修などをはじめ、情報教育への行政の支援をお願いしたい。</p>			
-----------	--	--	--	--

13	事業名	中学校情報教育支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	2,484千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	中学校に情報教育支援員を配置することで、国際性豊かな人材育成と情報教育を活用した学力向上への環境を整える			
平成29年度の取り組みの概要	読谷中学校、古堅中学校の両校担当を1名配置し、各中学校においてICT機器を活用した授業の補佐、また、情報機器を活用する教員のサポート等の支援を行った。			
進捗状況	2中学校に1名を配置した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	年間を通し、中学校に情報教育支援員を配置することで、情報機器を活用する教員のサポート体制の強化構築を行うことができた。			

今後の課題	情報教育支援員の活用による支援体制の構築に努めてきた結果、教員のICT教育機器活用スキルが向上し、校内の教員同士の研修でICT教育機器が活用できるまでになった。したがって、情報教育支援員の継続配置について検討が必要となった。			
対応策	情報教育支援員の継続配置の是非について検討した結果、継続配置は必要なしと判断し、事業を完了とする。			

学識経験者のご意見	今年度は、両中学校に1名の支援員を配置し、ICT機器を活用した授業の補佐、教師のサポートが行われた。専門の支援員の学校への派遣により、教師の指導技術を向上させ、それに伴う、子ども達の学ぶ意欲の向上、確かな学力の定着に寄与してきた。本事業の目標は達成していると評価される。ただ、今後は、SNSの普及、AIの進展などICT機器の更なる高度化が予想され、子ども達の成長・向上に合わせた研修が必要になる。本事業は終了する様であるが、情報の世界は進歩が著しい。世間の常識が学校の非常識にならないように、今後とも情報関連の支援をお願いしたい。			
-----------	---	--	--	--

14	事業名	幼稚園教育支援員配置事業		
担当部署	学校教育課 学校教育係	事業費	7,341千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		
事業の目標	子育て支援、保護者の就労支援。			
平成29年度の取り組みの概要	早朝から登園する園児の受け入れや担任のサポートなど、日常保育の中できめ細かな教育支援(補助)を行う。 ・各園1名配置。			
進捗状況	子ども子育て支援制度の開始に伴い、平成27年度より午前7時30分からの早朝受け入れを行っている。今後も継続して事業を実施する。			
自己評価	B	目標を達成する効果があった		
	早朝からの受け入れが可能となったことにより、保護者の就労支援に繋がった。 クラスの中に支援員が入ることにより、園児へのきめ細かい対応が可能となり、午前の教育活動が充実した。			
今後の課題	資格要件があることや早朝からの勤務であることに加えて、5時間の短時間勤務で報酬が低額であることから、人材の確保が難しい。			
対応策	待遇面の改善を検討する。			
学識経験者のご意見	幼稚園教育は、小学校、中学校と続く義務教育の基礎と言われるぐらい大事なものである。預かり保育や配慮を要する子への対応、本事業での支援員の配置など、様々な支援を高く評価したい。早朝からの受け入れや預かり保育の時間延長など、厳しい勤務形態がある中、頑張っている担当職員の皆さんに敬意を表したい。 今後、課題となる待遇改善など、しっかり対応して人材を確保し、子ども達へのきめ細かな支援が更に充実する事を期待したい。			

15	事業名	古堅給食調理場運営事業		
担当部署	給食調理場 給食係	事業費	27,299千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	食の安全・安心、栄養バランスのとれたおいしい給食供給、児童生徒の健康、食育及び村民の食生活改善に寄与する学校給食運営をめざす。			
平成29年度の取り組みの概要	安全で栄養バランスのとれた給食の供給、施設設備、食材物資、調理業務の安全・衛生管理の徹底などを図った。			
進捗状況	古堅小学校(641人)、古堅南小学校(655人)、古堅中学校(698人)に給食を提供した。 今後も継続して、提供していく。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	年間を通し、充実した給食を提供することができた。			

今後の課題	今後も食の安全・安心を守る取り組みを継続する必要がある。			
対応策	今後も継続して安全管理の徹底、職員の資質向上を図る。			

学識経験者のご意見	<p>先日、他の市町村で学校給食に異物が混入したとのニュースが流れた。関係者は食の「安全性」の確保が最も重要である事を自覚しなければならない。</p> <p>本調理場では、古堅小学校、古堅南小学校、古堅中学校への給食、約2千食を提供しながら、食材や調理の安全、衛生管理の徹底など、栄養士、調理場職員及び関係者の皆さんが安全・安心な給食作りに努められていることに敬意を表するものである。</p> <p>今後とも、施設整備の充実、地産地消～地域の食材の安定的な確保などを通して、子ども達への栄養バランスのとれたおいしい給食の提供をお願いしたい。</p>			
-----------	--	--	--	--

16	事業名	読谷第二給食調理場新增改築事業		
担当部署	給食調理場 給食係	事業費	1,072,277千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		

事業の目標	安全・安心な学校給食の供給に資する。			
平成29年度の取り組みの概要	読谷第二給食調理場が完成し、また、新たな調理器具を購入した。 敷地面積 4,119㎡ 厨房方式 ドライシステム 延べ床面積 1,806㎡ 調理能力 3,500食			
進捗状況	予定どおり、読谷第二給食調理場が完成し、また、新たな調理器具を購入した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	当該調理場が完成したことや新たな調理器具の購入により、衛生環境の向上が図られ、児童生徒へ、より、安全・安心な給食を提供することができるようになった。 また、洗浄機等が導入され、洗浄作業では職員の負担が軽減された。			

今後の課題	他の調理場と同様に当該調理場においても、安全・安心な給食を守る取り組みを継続する必要がある。			
対応策	他の調理場と同様に当該調理場においても、継続して安全管理の徹底、職員の資質向上を図る。			

学識経験者のご意見	<p>食育は、生きる上での基本であり、知育、徳育、体育の基礎となる大切なものであり、子ども達は、心身の成長が著しく人格の形成の基礎を培う大事な時期にある。その事の自覚を持って取り組む事が大事である。</p> <p>今年度、調理能力3千5百食の読谷第二給食調理場が完成し、新たな調理器具の購入もあり、より衛生環境などの向上が図られた。今後も、安全・安心で美味しい給食作りにご尽力くださるようお願いしたい。</p> <p>更に、給食に関わる関係者の皆さんの連携・協力によって、「食文化」の継承、食の大切さ等の食育を多くの人に理解してもらえるようにご尽力願いたい。</p>			
-----------	---	--	--	--

17	事業名	文化センター施設管理運営事業		
担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費	76,004千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	鳳ホールとふれあい交流館の複合施設である文化センター施設の運営		
平成29年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・鳳ホール 101日の貸館と34,627人の利用者があった。 ・ふれあい交流館 1,546回の利用回数と60,073人の利用者があった。 ・施設の改修として中ホールの空調機器改修工事(第1期)を行った。 		
進捗状況	<p>鳳ホールは平成25年度に舞台張替えや音響・照明のデジタル操作盤への入れ替えを行い利用者の要望にこたえることが出来るようになった。</p> <p>ふれあい交流館は自主事業を始めサークル活動の充実を図った。また、ふれあい広場は近年民泊の入・離村式に利用されている。</p>		
自己評価	B	目標を達成する成果があった。	
	<p>利用者に重複がある時は、時間や場所の変更や文化センター登録のサークルに場所の変更等対応してもらい、多くの村民に利用できるよう調整した。</p>		

今後の課題	開館19年を経過し、経年劣化による空調機器の不良や雨漏り等施設修繕が急務である。		
対応策	年次的に空調機器改修工事と防水塗装工事を行う。		

学識経験者のご意見	<p>本村の文化的中核施設となる鳳ホール及びふれあい交流館の利用率や利用者状況は良好である。こうしたなかで、音響や照明等の設備等が改善され、利用者の要望に応えることができたことは評価される。今後、施設の老朽化に鑑み防水や空調等の改修工事が計画的に実施され、村民の文化的諸イベントが継続的に使用できるよう切望する。</p>		
-----------	--	--	--

18	事業名	鳳ホール自主事業		
担当部署	生涯学習課 文化センター係	事業費	5,112千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	鳳ホール事業を通じて村民に舞台芸能の感動と喜びを与える。			
平成29年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域伝統芸能保存事業「喜名 組踊 忠臣護佐丸」 ・人形劇団ひとみ座「弥次さん喜多さんトンちんカン珍道中」 288名 ・劇団たんぽぽ新春公演「グリックの冒険」 200名 			
進捗状況	村内に継承されている芸能を(一財)地域創造から補助を頂き映像記録として残すことで記録・保存・収蔵・発信する。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	地域伝統保存事業は今回で5回目です。衣装や稽古風景等を映像で残すことで今後、当該芸能を継承し広く活用できる。また、人形劇は近年公演がなく色々な芸術を鑑賞する意味から良い取り組みと考える。			

今後の課題	誘致事業を行うにあたり、色々な手段を講じて集客を図るもチケットの売れ行きは2週間前からしか伸びない、それを改善する。			
対応策	ホームページをはじめとする広報活動の強化。			

学識経験者のご意見	<p>沖縄戦では、多くの貴重な文化的遺産を失ってきた。近年、高齢化に伴い継承者が無く各地で伝統芸能が消失傾向にある。こうした状況下で、本村が地域伝統芸能保存事業で組踊りなどの伝統芸能に関する取り組みを実践し、それを記録・保存していることは、時宜を得た重要なことであり高く評価できる。また、本物の舞台芸術を鑑賞できたことは、子どもたちの豊かな感性を築く上で非常に大切なことであり、素晴らしい企画であった。今後の集客増加に期待する。</p>			
-----------	--	--	--	--

19	事業名	家庭教育支援事業		
担当部署	生涯学習課 生涯学習係	事業費	3,147千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	共に学び、共に育つ場づくり		
事業の目標	地域の公民館等を活用し、子ども達の放課後の安心安全な居場所づくりを図る。また、地域の大人と子ども達とが異年齢交流を行い、触れ合うことを通して、子どもの主体性を育み、地域の活性化を図る。			
平成29年度の取り組みの概要	6箇所延べ参加人数 6,899名 宇座わんぱく広場 736名(週1回、金曜日開催) 波平わんぱく広場 344名(週1回、月曜日開催) 喜名わんぱく広場 948名(週1回、月曜日開催) 大添わんぱく広場 3,860名(週5回、月～金開催) 大木わんぱく広場 406名(週1回、月曜日開催) 横田わんぱく広場 605名(週1回、金曜日開催) ※15:00～17:00の2時間開催。			
進捗状況	前年度実績と比較して、 延べ開催数421回(平成28年度)→447回(平成29年度)6%の増加 延べ登録児童数182名(平成28年度)→185名(平成29年度)2%の増加 延べ参加人数6,148名(平成28年度)→6,899名(平成29年度)12%の増加			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	今年度新たな取り組みとして、2小学校(喜名・古堅)の入学式に参加し、新入生保護者向けに広報活動を行った。前年度と比較すると1年生の登録児童数が2小学校区(4教室)では、平成28年度→15名 平成29年度→53名(3.5倍)に増加した。増加できたのは、広報活動で周知を図りわんぱく広場の認知度が向上した成果だと思う。			
今後の課題	参加児童を増やす。 新たな地域の見守り隊の発掘。 開催回数を増やす。 宇座公民館建設工事に伴う、開催場所の選定			
対応策	参加児童を増やすために、入学式での広報活動を4小学校で行えるように協力依頼をする。また、見守り隊増加に向けて広報活動を更に工夫する。 開催会場(公民館)との意見交換を図り、開催の拡充を継続して協議する。			
学識経験者のご意見	次代を担う子ども達に、各地域の公民館で家庭教育支援が行われ、関係職員やスタッフの努力が見られる。「地域の子は地域で育てる」をモットーに、今後は、PTAや学校、さらに地域と連携を密にして、放課後何もしていない孤立している小中学生を対象に、子ども目線で豊かな居場所づくりを継続して取り組む必要がある。			

20	事業名	図書館運営事業		
担当部署	生涯学習課 図書館係	事業費	33,527千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	夢広がる学びの場づくり		

事業の目標	<p>村民及び村内在学、在勤者(貸出及びレファレンス対象)、村外利用者の(相互貸借及びレファレンス)生涯学習の充実を図る。また、図書館資料及びレファレンス機能を活用し、地域課題の解決に対応する情報を広く提供し、暮らしの中に役立つ情報センターとしての地域支援型図書館として、村民サービスに寄与する。</p>
-------	--

平成29年度の取り組みの概要	<p>図書の貸出サービス以外に、定例行事として、おはなし会(月2回)・おりがみ教室(月2回)・キッズビデオ(月1回)・ブックスタートおはなし会(月2回)の実施。主催事業として、子どものための朗読会(4月・12月)・夏休み企画・図書館フェスタ・大人のための夜の朗読会を通しての普及啓発活動。新着リスト・定例行事案内を発行し配布している。また、広報よみたんの紙面にて図書館だよりを毎月発行した。村民の生涯学習の場、情報収集の場として広く利用されるよう運営を図ってきた。更に、29年度は、図書館システム機器の更新を行い、安定的な図書館運営の維持に努めた。</p>
----------------	--

進捗状況	<p>開館日数260日、蔵書冊数113,410冊、貸出冊数105,756冊、新規登録者数551人。 読谷村、嘉手納町立図書館相互利用状況で、嘉手納町立図書館における読谷村民の利用数は、登録者数228人、貸出冊数32,915冊、利用人数6,198人。</p>
------	---

自己評価	B	目標を達成する効果があった
	<p>図書館資料の購入、寄贈等により図書館資料の充実を図ることができた。レファレンス(調べもの)件数が前年度より増加しており、地域の課題解決学習情報の拠点としての役割を担う施設として広く村民に認識されていると考える。 普及啓発活動定例事業、主催事業実施をとおり、幅広い年齢層の村民に図書館活動の周知を行うことができた。 貸出冊数、貸出人数、学習室利用数について、前年度より減少している。その要因として、夏場の学習室の空調の故障、図書館システム機器の更新作業により、2月に長期閉館したことがあげられる。 前年度課題としていた、団体への絵本のセット貸出については、村内保育施設や障害児福祉事業所等を中心に個別に案内資料と大型絵本等の特別資料のリストを一緒に配布する等、周知に努めたが、結果的にはセット貸出の利用には結びつかなかった。しかし、大型絵本等の特別資料については、保育施設等で活用されている。 嘉手納町立図書館相互利用状況では、読谷村民の新規登録者数は前年度より減少しているが、貸出冊数、利用人数については、増加している。</p>	

今後の課題	<p>貸出冊数、貸出人数等の前年度実績より減少している項目について改善に努める。 嘉手納町立図書館相互利用状況について利用数を増やす。</p>
-------	--

対応策	<p>図書館の利用状況を改善する為に、広報活動を更に工夫する。 団体利用についても推進するために、周知方法を工夫する。村内保育施設や障害児福祉事業所等を中心に積極的に周知をしていく。</p>
-----	--

学識経験者のご意見	<p>地域図書館では、子ども達への積極的な各種読書企画が大変良好で図書館利用が非常に高くなっている。しかしながら社会人になっての図書館利用率がまだかなり低い状況である。こうした課題に対して、夜の読書会や『広報よみたん』を活用した毎月の「図書館だより」の掲載、公民館やスーパー・コンビニ等での新刊リストの配布など、図書館利用を働きかける広報活動を今後も継続することが大事である。特に、近隣嘉手納町立図書館との相互利用ができたことは実に素晴らしい。</p>
-----------	--

21	事業名	後援団体育成事業		
担当部署	生涯学習課 スポーツ振興係	事業費	15,804千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	⋮	心と体の健康づくり	

事業の目標	各種団体に補助金等を支出し、活動を支援することにより、団体及び選手の育成やスポーツ指導が充実し、青少年の健全育成につながることを目指す。			
平成29年度の取り組みの概要	負担金を中頭郡体育協会など4団体へ、補助金を読谷村体育協会など6団体へ支出。			
進捗状況	村のスポーツコンベンションに関連して、村ソフトボール協会や村サッカー協会などと、連携してスポーツキャンプの受入対応ができた。 読谷村スポーツ振興推進協議会においては、助成金5件、激励金21件、褒賞金1件の交付を行った。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	各種団体の活動によって、本村スポーツの普及・振興に寄与しており、チームや個人においても、中頭大会や県大会などで優秀な成績を収め、県外へ派遣されている。			

今後の課題	優秀なスポーツ選手育成の為に継続支援が望まれるが、派遣費の助成が届かないということがないようにするため、周知徹底が必要である。			
対応策	各種団体の総会や会合、講習会等で制度の説明や周知を行う。 村ホームページを活用しての周知。			

学識経験者のご意見	村のスポーツ振興は、健康でたくましい村民育成に寄与するものであり、まさに村民の生涯スポーツが不可欠である。この視点から、村スポーツ振興推進協議会等への助成金や激励金だけでなく、各種団体への諸活動や大会などの支援・協力が献身的に行われ、その業績は大きい。今後の課題と対応策に期待する。			
-----------	---	--	--	--

22	事業名	歴史民俗教育普及事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	19,730千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	村民に読谷村の歴史文化を理解してもらい、読谷村民としてのアイデンティティを確立してもらうことによって、これからの村づくりに寄与する人材を育成すること。また、村外の方には読谷村の歴史文化を紹介し、読谷村の理解者となって頂くことを目標とする。			
平成29年度の取り組みの概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動企画展「掘り出された読谷の歴史」内での紙芝居及び映像展示。 2. 学芸員実習の受け入れ。 3. ユンタンザフィールドミュージアム構築事業。 (各字歴史民俗ガイドマップ案内板製作・設置) 4. 紀要の発刊。 			
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 瀬名波公民館・大湾公民館の二か所で移動展を開催した。 2. 学芸員実習:琉球大学(1名)受入。 3. 親志・長田の二自治会のガイドマップを製作、案内板を設置した。 4. 読谷村立歴史民俗資料館紀要第41号(500部)を発刊した。 			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	移動展を通して、地域の身近な生活文化や歴史、伝統について考えて頂くことが出来た。また学芸員実習では、普段は体験出来ない資料館の役割等を大学生に伝えることが出来た。歴史民俗ガイドマップを作製・紹介し調査を継続して行くことは、情報の収集・保存の観点から読谷村にとって非常に有益である。			

今後の課題	これまでに多くの方からの理解と協力のもと、さまざまな資料の寄贈を受けた。これらの膨大な資料を整理し、展示・閲覧資料として活用し村民・来館者に還元し続けて行くこと。			
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の整理方法を再検討する。 ・歴史民俗ガイドマップの作成を継続し、その情報を各自治会に還元するとともに、観光にも役立てるようユンタンザミュージアム等で紹介する。 			

学識経験者のご意見	計画的に各年度で各字の歴史民俗ガイドマップの作成や案内板の設置、移動企画展が取り組まれており、関係職員の努力に感謝する。「温故知新」の観点から、今後、これらの資料を新ミュージアム内に効果的に企画・展示し、学校教育や生涯学習に活用できるよう切望する。			
-----------	--	--	--	--

23	事業名	美術館教育普及事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	4,553千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	地域の教育・文化の充実発展に寄与し、美術館普及・情報サービスを図ることを目標とする。			
平成29年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ユンタンザミュージアム建設に伴う引っ越し作業。 ・学芸員実習の受け入れ。 ・年報の発刊。 			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ越し作業を完了した。 ・学芸員実習:琉球大学(1名) ・平成29年度読谷村立美術館年報(300部)を発刊した。 			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ越し作業と並行して、美術品等の資料の整理を並行して行えた。 ・学芸員実習では、普段は体験出来ない美術館の役割等を大学生に伝えることが出来た。 ・年報の発刊は、美術館普及・情報サービスに効果がある。 			

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携を維持し、児童生徒の美術教育の充実に寄与すること。 ・地域住民に美術工芸に対するより一層の理解・関心を持って頂くこと。 			
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度はユンタンザミュージアム建設中のため開催できなかった美術工芸教室を再開する。 ・企画展や解説会などのイベントの広報を強化する。 			

学識経験者のご意見	<p>本村は人間の価値ある精神的文化を重んずる美術館を設置している。今年度は、新ユンタンザミュージアムへの引っ越しや美術品等の整理、美術館年報の発刊となったが、高度情報化時代を迎え、人間関係が殺伐になりつつある昨今、美しい絵画や彫刻、素晴らしい工芸等の美術作品にふれる機会が益々重要である。本村の新しい施設がこうした役割を持つ充実した展示や企画となるよう期待する。</p>			
-----------	--	--	--	--

24	事業名	埋蔵文化財調査管理事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	25,434千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	⋮	地域文化の創造発展	

事業の目標	これまでに発見された埋蔵文化財の周知と活用を図り、村内の埋蔵文化財の認知度を高め、文化財保護意識を高めること。
-------	---

平成29年度の取り組みの概要	平成30年度にオープンを予定している博物館に展示し、活用するため木綿原遺跡出土人骨の模型等の製作を行うほか、子ども達や地域の人々に村内の埋蔵文化財の存在を知ってもらうために移動展や文化財巡り、文化財講座、案内板の設置を行った。
----------------	---

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・木綿原遺跡出土人骨のレプリカ製作 ・木綿原遺跡出土人骨の復顔模型製作 ・蝶形骨製品、東原式土器、漢式三翼鏃、五銖銭のレプリカ製作 ・移動展2回(瀬名波、大湾) ・村内文化財巡り2回(村内小学生を対象) ・文化財講座1回の開催 ・文化財案内板設置(村内2箇所)
------	--

自己評価	A	目標を上回る成果があった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・当初レプリカ製作は木綿原出土人骨のレプリカと復顔模型のみであったが、入札により委託料を抑えられたことで、蝶形骨製品等のレプリカを製作することができ、よりわかりやすい展示・活用ができるようになった。 ・文化財巡りや文化財講座においては多くの方に参加いただいた。 	

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財については、村民の方の理解がなければ調査はもちろん、保存することも困難であることから、引き続き多くの方にご理解いただけるように文化財を積極的に展示等で活用することで周知の徹底を図る必要がある。
-------	--

対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも継続的にレプリカ等の製作を図り、より分かりやすい展示を行う他、移動展や文化財巡りを積極的に行っていく。
-----	---

学識経験者のご意見	<p>次年度に向けた新ユンタンザミュージアム内に展示する村内の遺跡出土人骨等の模型製作の準備、小学生の文化財巡り、地域への移動展、文化財案内板の設置等々、数多くの取り組みに敬意を表する。埋蔵文化財は、古代の歴史ロマンを抱かせ、過去と現代をつなげる貴重な遺産である。今後にも多くの村民が参加できる文化財巡りや歴史講座等を継続してほしい。</p>
-----------	---

25	事業名	返還軍用地埋蔵文化財発掘調査事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	21,790千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・返還軍用地等における埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘・確認調査や発掘調査成果の整理及び発掘調査報告書の発刊準備を行うことを目的とする。
-------	--

平成29年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・読谷村内の返還軍用地や開発予定地域における埋蔵文化財の範囲と性格を把握するため、範囲確認調査を実施した。 ・出土遺物や図面等の整理を行い、調査報告書の刊行に備えた。
----------------	--

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬名波通信施設跡地の範囲区確認調査。遺跡範囲の確定。 ・喜名古窯跡周辺における試掘調査の実施。 ・読谷中学校跡地における試掘調査の実施。 ・カナグシク周辺における試掘調査の実施。 ・シナハグシク周辺における試掘調査の実施。 ・大湾アガリヌウガン遺跡の遺物撮影。
------	--

自己評価	A	目標を上回る成果があった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は瀬名波通信施設跡の範囲確認調査のみを予定していたが、昨年度中に急遽依頼のあった試掘調査を4件行った。 ・また、瀬名波通信施設跡の発掘調査の今年度予定業務を見直すことで、委託料を想定より安く抑えたことができ、大湾アガリヌウガン遺跡出土遺物の写真撮影を行うことができた。 	

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬名波通信施設跡では、今後予定している土地改良事業の設計次第では本発掘調査を行う必要があることから、土地改良事業に影響のないような調整・事業の実施を心がける必要がある。 ・大湾アガリヌウガン遺跡については、文化財の国指定を目指していることから、まずは平成31年度に報告書を発刊できるように取り組んでいく。
-------	--

対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬名波通信施設跡地については、地主会や村農業推進課と連携を密にしつつ、沖縄県との連携を図ることで、なるべく文化財を残せるような調整を行いながら、スムーズな本発掘調査の実施を行う必要がある。 ・大湾アガリヌウガン遺跡については、有識者の意見を聞き、国指定を視野にいれながら報告書発刊の準備を行う。
-----	---

学識経験者のご意見	<p>返還軍用地や開発予定地における埋蔵文化財の調査、喜名古窯他、数か所の試掘調査や大発見された大湾アガリヌウガン遺跡の撮影など、多くの調査等に奔走されたことを高く評価する。今後、計画的に本格的な発掘調査ができるよう継続的な予算計上が見込まれる。</p>
-----------	---

26	事業名	村内遺跡発掘調査事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	35,964千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	・民間開発が予定されている区域において発見された埋蔵文化財の資料整理を行い、報告書発刊を行うことを目標とする。			
平成29年度の取り組みの概要	・過年度に本発掘調査を実施した、片江原貝塚A地点・二重兼久原貝塚の資料整理を行い、報告書の発刊を行う。			
進捗状況	・片江原貝塚A地点・二重兼久原貝塚の報告書の発刊 ・キャンプ瑞慶覧及び牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移設事業予定地における埋蔵文化財発掘調査に向けての協定書及び契約書の締結			
自己評価	A	目標を上回る成果があった		
	・当初計画のとおり、片江原貝塚A地点・二重兼久原貝塚の報告書の発刊を行うことができた。 ・当初事業予定になかったキャンプ瑞慶覧及び牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移設事業予定地における埋蔵文化財発掘調査について、沖縄防衛局と調整を行い、調査の目途をつけることができた。			

今後の課題	・キャンプ瑞慶覧及び牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移設事業予定地における埋蔵文化財発掘調査については、遺跡面積が広大であることに加え、沖縄防衛局からは短期間での調査を行うように依頼されていることから、できる限りその対応を行っていく。			
対応策	・キャンプ瑞慶覧及び牧港補給地区の一部返還に伴う陸軍関連施設移設事業予定地における埋蔵文化財発掘調査は、本村だけでは沖縄防衛局の希望する期間で調査を終了させることが困難であることから、沖縄県にも協力を求めながら調査を行っていくとともに、後世のためにできる限り遺跡を現地に残していけるよう沖縄防衛局と調整を図っていく。			

学識経験者のご意見	発掘された新二か所の貝塚に関する調査と資料整理など、地道な作業と根気のいる仕事に取り組まれた関係職員が今年度とその報告書の発刊ができた業績に敬意を表する。報告書の概要については、これまでに発掘された木綿原遺跡などと合わせて、学校での歴史教育に活用できるよう期待したい。			
-----------	--	--	--	--

27	事業名	沖縄語保存継承事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	6,097千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきた沖縄語(しまくとぅば)の保存継承に寄与するため、生まれ育った地域の沖縄語で伝承されてきた民話や琉歌を調査・整理し、沖縄語に親しめる媒体(絵本やDVD等)を製作し、沖縄語になじみの薄い幼児や児童生徒らに沖縄語の教材を提供する。		
平成29年度の取り組みの概要	民話絵本、CD、DVD、紙芝居を製作し、村内保育園や小中学校、自治会事務所などに配布した。		
進捗状況	民話絵本「ゆんたんざむんがたい」その5を1,000冊。 民話CD「ゆんたんざむんがたい」第5集を1,000枚。 民話DVD「ゆんたんざむんがたい」第5巻を1,000枚。 民話紙芝居1編。 以上を製作し、各所に配布した。		
自己評価	B	目標を達成する成果があった	
	保育園や小学校、ゆいまーる共生事業などの読み聞かせで活用してもらい、沖縄語に親しんでもらうことができた。		

今後の課題	これまでに製作した絵本やCD、DVD、紙芝居を広く活用してもらえるように周知する必要がある。		
対応策	ユンタンザミュージアムにおいて、展示会の開催やDVD上映会などを開催して、多くの来館者に見てもらおうとともに、沖縄語に関心を持ってもらう取り組みを企画する。		

学識経験者のご意見	本県や本村を含め、今後の30年間で「うちなーぐち」の危機的状況の可能性はある。そのなかで、「うちなーぐち」での民話の絵本やCD、DVD、紙芝居を制作し、保育園や小学校で活用した実績は大きい。保存と継承するには、さらに村の歴史や現況、日々のくらしなどの様子を高齢者に「うちなーぐち」で語らせ、記録・撮影しておくことが肝要である。		
-----------	---	--	--

28	事業名	歴史民俗資料館建設事業		
担当部署	文化振興課 文化振興係	事業費	773,997千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	地域文化の創造発展		

事業の目標	既存の読谷村立歴史民俗資料館、村立美術館を改築し、世界遺産座喜味城跡のガイド施設やビジターセンター機能の拡充と強化を図ることによって、城跡と連携した施設運営を行うことが可能となり、来場者への満足度を高め、文化振興や観光振興を推進する。			
平成29年度の取り組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・工事(建築・電気・機械)の完了 ・展示及び音声ガイド制作の完了 ・アプローチ広場整備(外構)工事の完了 ・供用開始に向けた備品購入の完了 			
進捗状況	部材搬入の遅れにより、東屋・外部階段設置工事を次年度へ繰り越したが、その他の工事等については、予定どおり完成した。			
自己評価	B	目標を達成する成果があった。		
	施設整備課や業者との連携も十分に図られたことから、順調に進捗することが出来た。			

今後の課題	読谷村全体をフィールドミュージアムと位置づけ、その中核施設として担えるよう、文化資源の情報発信や村域内の魅力ある資源を紹介出来る様にする。			
対応策	常日頃から様々な方向にアンテナを張って情報収集を行い、展示等に活用するとともに、様々な企画展を開催していく。			

学識経験者のご意見	昨今の建設業における人手不足のなか、両館の増改築工事が計画どおり完成できたことについて、村教委及び工事関係者のご尽力を高く評価する。さらに、関係職員による展示物や備品購入等を充実させ供用開始ができる体制ができたことに敬意を表す。今後、学校教育や社会教育での効果的活用を図り、村内外の観光振興にも寄与することを期待する。			
-----------	---	--	--	--

29	事業名	移民出稼ぎ調査編集事業		
担当部署	文化振興課 村史編集室	事業費	11,909千円	
施策名	ちむ清らさの人づくり	⋮	地域文化の創造発展	

事業の目標	戦前から戦後にかけて、海外及び県外に夢と希望をもって出稼ぎ・移民した村人の歴史を証言や資料を基にまとめ上げていく。			
平成29年度の取り組みの概要	これまでの調査で収集した資料を基にして、各国および地域ごとの特徴が表現できるように原稿化し、日本語のほか英語・スペイン語・ポルトガル語に翻訳した多言語の小冊子(112頁)を編集・発刊した。また、それを読谷村のホームページ上に公開した。			
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語小冊子1000部発刊 ・読谷村公式ホームページで公開 			
自己評価	B	目標を達成する成果があった		
	予定通りのスケジュールで、海外及び国内、母村調査を実施し、初の試みでもあった多言語小冊子を刊行することができた。調査に協力していただいた国外・県内外の村人会に心から感謝している。今後は、膨大な資料を編集して資料編、本編に取り組んでいく。			

今後の課題	発刊した多言語小冊子を通して、読谷村における移民・出稼ぎの状況を広く周知していく必要がある。			
対応策	<p>収集した貴重な資料群を活用して、ユンタンザミュージアム等で展示会を開催し、移民・出稼ぎの歴史について理解を深めてもらう。</p> <p>また、海外へ移民した村人の子弟によるルーツ探しへの対応等を行っていく。</p>			

学識経験者のご意見	<p>村民の戦前戦後の海外移民や県外出稼ぎは、苦難な歴史を知る貴重な資料であり、これまでの調査や資料のまとめ、多言語による小冊子を刊行ができたことは実に素晴らしい。これら本村の近代史の資料が村内各学校で活用され、新ミュージアムでは読谷世界ウチナーンチュの皆さんに関する歴史を適切に常設展示することが大切である。</p>			
-----------	---	--	--	--